

おはようございます。11番上野淑子、議長の登壇の許可を得ましたので、一般質問をしていきたいと思っております。

先ほど来、傍聴席のことでいろいろありましたけれども、私は武雄市政については、実際に見ていただいて理解をしていただきたいと思いますと思っておりますので、たくさんの方が来ていただいております。

たくさんの方、今まで12人の議員さんたちからいろんな質問が出てまいりましたので、これから躍進していく武雄市の素晴らしいところと、また、これから取り組まなければならないたくさんの方の課題が出てまいりました。私もこの一般質問では、大変勉強をさせていただいております。最後は、山口昌宏議員さんが残りますので、締めていただきたいと思いますと思っております。

きょうは今までずっと、いろんな議員さんたちからたくさんの方の話題が出ておりますけれども、時代の流れについて、4つばかり質問していきたいと思っております。

始めに、幼児教育について大きく、先ほど来、宮本議員さんからも出ておりましたが、3法について、いろんなことについて、教育も大きく流れを変えるじゃないですけど、かようになっております。でも、本当の根幹はどうなのかということについて、いろいろとお尋ねをしていきたいと思っております。

それから3法に伴う子ども子育て会議について。これもとても大事なことですので、どういうふうになっているかお尋ねをしたいと思っております。

それから、先ほど来より出ておりますタブレットの導入について、私なりに、それからきょう来ていらっしゃるたくさんの方々の質問の中から、お尋ねをしていきたいと思っております。

最後に福祉の充実についてですけれども、引きこもりのことについてお尋ねをしていきたいと思っております。

この質問により、1歩でも前進していけるようにのぞみながら、質問をしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

まず始めに、先ほど来よりの3法について、簡単にどういうふうな流れになっていくのかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

（モニター使用）子ども・子育て関連3法については、去年の8月に制定をされまして、27年度本格実施の想定をされております。子ども・子育て3法について、ちょっと中身を御紹介させていただくということでよろしいでしょうか。

子ども・子育て関連3法の支援制度でございますが、国では設置手続きの簡素化や、財政支援の充実、強化を図りまして、保育所と幼稚園のよさを併せ持つ認定こども園の普及を進

めるとしています。

認定こども園には、幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型の4つのタイプがございまして、メリットは保護者が働いている、働いていないに関わらず利用ができる。また、就労状況が変化しましても、引き続いて利用ができるということがございます。

武雄市におきましては、認定幼稚園が保育所の機能を併せ持つ、幼稚園型の認定こども園が1カ所。認定保育所が幼稚園の機能を併せ持つ、保育所型認定こども園が1カ所ございます。

また、核家族化や地域での人間関係の希薄化がますます進んでおり、家庭や地域での子育て力が低下していると言われております。が、全ての家庭を対象に、親子が交流できる拠点を増やしたり、例えば武雄市でいいますと、子育て支援センターのような機能です。放課後児童クラブの対象を6年生までに拡大するなどの施策で、地域での子育て支援の充実を目指しています。

都市部を中心に、保育所に入れないう待機児童が存在いたしますけれども、一方では、子どもの減少化で保育の場がなくなっているという地域もあることから、認定こども園や保育所などを計画的に整備し、待機児童の解消のため、保育の受け入れ人数を増やしていく。また、子どもが減少している地域では、少人数の保育施設などの運営を支援し、保育機能を確保していくなど、取り組みを進めています。

以上で説明を終わりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう少しわかりやすく言いますと、今までは、保育所と幼稚園あるいは保育園というのがあって、極めて縦割りで、どうしても箱ですよ、保育園とか幼稚園とか。その箱に合うようにお子さんを募集したりしたんですけれども、今回の認定こども園というのは、いろんな自由度がききます。

最初、7、8年前の当初の目的とした認定こども園とは大分ずれていることは否定できないんですが、それでも旧来の保育所であったり、保育園であったり、幼稚園からすると、保護者の意向がより伝わるようになっておりますので、そういう意味では選択肢がもう1つ増えたということで、私は一定の評価をしています。

ただし、そうは言ってもしよせん人間がつくるものですので、更に改良が必要かなということは感じておりますけれども。

そして今、認定こども園がだんだん増えてきているんですよ。その効果を、ちゃんと私たちも見ていく必要があるだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

そのようにいほうに変わっていくと私も思っておりますが、この法案ができたことによって、武雄市としては、今現在どのような考えで進んでいらっしゃるのかなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

武雄市では施設の整備や保育所の定員を増やすなど、積極的に子育て支援の環境整備を進めております。ということもございまして、武雄市の場合は待機児童もない状況にございます。

今後も、保育施設の整備、保育サービスや子育て支援など地域ニーズに応じた施策の充実を図っていくというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう少し柔らかい言葉で言いますと、認定こども園であったにしても、今までの保育園であったにしても、ともすれば、私が見る限り画一的なんですよ。武雄市に限らず、地方の保育園というのは画一的で、それよりももっと、例えば武雄の場合だったらこの大自然があるじゃないですか。

これはいろんなところで今、申し上げてありますけれども、園舎に閉じ込めると言ったら、これは語弊がありますけれども、やっぱり豊かな大自然で子どもを遊ばせる。遊具もよいんですけれども、それよりも自然の中に入って行って、例えば川遊びをするとか、どちらかという、保育園そのものの運営がそっちのほうに切り替わってきているんですね。これは非常に好ましい状況にあると思います。

ですので、例えば、他市のことを言って恐縮なんですけど、多久のさくらんぼ保育園とか、武雄市からも多くの皆さんたちが行っていますので、そういうところを参考にしながらしていくことを僕は今求められていると思っておりますし、先般、武内の保育園が新しくなって、その園長さんが、自然とともに触れ合って子どもたちを伸び伸びすくすく育てたいという御意向もありました。私はそのとき、開所式にも参りましたので。

そういうふうに、自然と子どもたちが一体となるようにしていく。それが、認定こども園であるとか保育園とかは別にして、そういうふうになっていくことができればよいと思えますし、ぜひ、これは競争してほしいと思います。しかも競争することによって、それは自分たちがやっているから真似しないじゃなくて、どんどん真似してほしいと思います。

僕は、TPPは反対です。でもTTIPは賛成です。徹底的にパクリ。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

今の、本当にそういうふうに進んでいけばよいなと思っております。

それを補足するように、子ども・子育て会議というのが設置するようになっておりますが、その武雄市の状態をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

子ども・子育て会議は、武雄市においても今年度設置をしたいというふうに考えております。

内容もですか？

〔11番「構成員について——」〕

設置するにあたりましては、構成メンバーといたしましては、児童福祉分野、教育分野を中心に、また、当然保護者の方、そして保育所、幼稚園、母子推進員さんなど地域での子育てを支援されている方などを構成メンバーというふうに考えていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

こども部長と僕の掛け合い漫才みたいになってきましたけれども、これね、会議だけつくっても失敗します。前の次世代の会議がそうなんですよ。

こういう行政というのは、厚生労働省も私どももそうなんですけど、つくったことで満足しちゃうんですね。これはだめです。

ですので、今度、子ども・子育て会議というのは法律でつくるように私たちに指示をされていますので、これを存分に活用して、例えばいろんなところで、こじんまりとしてでもいいから、例えば出張子ども・子育て会議とか、きょう多くの方々が来られてますけど、結構お茶講とかされているじゃないですか。ですので、そういう感じでみんなが入ってきやすいような、会議会議すると、なかなか発言ができないじゃないですか。上野議員さんとか僕みたいな気持ちの弱い人は、ですので、そうじゃなくて、やっぱり気軽にこうですよ、ああですよっていうような会議をしていきたいなと思っておりますので、なるべく、市役所とかでの会議はやめようと思っております。

例えば、子育て総合支援センターであったりとか公民館も飛ばして、例えば上野議員さんの御自宅とか、そういうところでやると、よい意見が僕は出てくると思うんですね。だか

ら、場の設定はすごく大事だというように思っていますし、全員が揃わないとできないとかじゃなくて、いろんな人たちがオープンに、メンバーじゃなくても入ってこれるような、武雄らしい子ども・子育て会議ができればいいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

大変嬉しいことです。今、市長がおっしゃるような、子ども・子育て会議ができたり、この3法が上手く稼働していけば、本当に素晴らしい市になると思います。安心して子どもを産み、育てることもできるし、少子化問題も改善されるだろうし、また、これが本当に立派に稼働していけば、女性進出の基盤にもなってくるんじゃないかなと、楽しみにしております。

では、続きまして、そのように保育教育、幼児教育というものが大きく流れを変えようとしている中で、教育というものは根幹というものは変わらないと思います。何年も前から、20年も前から、本当に一生懸命やってらっしゃる素晴らしい園があるということを知り、私もこれは行ってみなければならぬと思って、行ってまいりました。

どういうものが、20年も根幹を持ちながら続けていって、みんなに受け入れられているのかということで、宝塚のわかばのもり保育園のほうにお邪魔させていただきました。そして、本当に驚いて帰ってまいりました。保育、幼児教育というのは、こういうものじゃないといけないのかなと。

武雄市内の幼稚園、保育園が、何もしていないことではありません。立派なことをしていらっしゃいます。私は違うところに行って、改めて見せていただいたということ、ちょっとスライドを見せながら、報告をしていきたいと思っております。

写真のほうですね、子どもたちをたくさん写してきましたので、それはタブーということでカットしておりますので、何枚かしかありませんけれども、見ていただきたいと思っております。

見る前に、その保育園の保育方針について、ちょっと読んでいきますので見てください。「遊びから学ぶ。現代の子どもたちに一番欠けている自然とのふれあいを大切に、知識の詰め込みでなく、個人個人の特徴を尊重した上で、知識を活かす知恵の創造を行います。1. 心身ともに健康な子どもづくり。2. 協調性、自己表現のできる子どもづくり。3. 感性豊かな子どもづくり。4. 人、物等に思いやりのある子どもづくり。——が必要と考えおります。

以上のことを、子どもにとって1番大切な遊びの中から自然に身に付けていきたいと思っております。子どもたちが真剣に遊ぶ環境をつくり、多くの経験、体験を活かし、人生を生き抜く力と喜びを育むことを、最大の目標と考えます。

そして、また、食にこだわる。人間にとって必要不可欠な要素の1つに食べるということがあります。ただ、給食を提供するのでなく、できるだけ、自然素材やアルカリイオン水を使った手作りによる給食を提供します。

また、ランチルームでの楽しい空間を演出することにより、食べることの意義を伝えていきます。」

この2つの大きな目標を持って、運営をされております。見てください——お願いします。

(モニター使用) この園長先生がおっしゃるには、子どもを預かった保育園というのは、6時なら6時まで預かって置いておだけじゃない。子どもの生活のリズムを変えないで、そして、我が家と同じような心地よい空間で、その時間まで過ごせるようにということで努力をされておりました。

見てください、ここは、とにかく広いスペースを取っておられて、今までの基準からしたら1.5倍のスペースを取っておりますという園長さんの話でございましたが、子どもたちが、「遊びたいな」、「本を読みたいな」と言ったら、ここに行って読む。常にこの場所を設置してあるということです。

それから、先ほど、食べることについてと言いましたが、給食室はちゃんとここから見える広いドアを取ってあって、お母さんがつくっているような感じで、ここを見て「今日は何かな」というのが見えるということで——してありました。

それから、それぞれの1階から2階に移るところとか、ちょっとしたところには、こういうふう子どもたちが「あら」と心配る、「あら、よいな」、「あら、かわいいな」というような、こういうところに、本当に箇所箇所に心配りがしてありました。

それから、きょう写真はありませんけれども、壁には、本物の名画が飾ってありました。私もびっくりしましたけれども、園長先生がおっしゃるには、「僕はある程度わかりませんよ」と。でも本物を飾っていると、子どもたちはやっぱり「あら」と思って見ている。だから、知らず知らずによい物がということで、すごいなと思いました。

これは給食室です。給食も、食べることを大事にするとおっしゃるように、居住空間と食べる場所を別個にしています。そこはそこで食べることのルールを、ちゃんと指導しています。すごいな、と思いました。みんな木でできておりました。

それから、年長さんたちは、こういうふうにしてお掃除を自分たちでされておりました。給食を嫌いな子どもたちとか、それぞれ子どもたちのスペースも違う。でも、子どもたちに合わせて、こんな片付けているけれども、横のほうでは、まだゆっくり食べる子ども、ここにこしながらゆっくりと食べていたりですね。でもそれは、何の違和感もなくスムーズにこういつているちゅう感じですよ。

これは、園の大体の全体の感じ、2階建てですけれども。本当に隅々に工夫がしてあり、気持ちのよい空間でした。

これは園庭です。宝塚というところは、大変なところだと思いますけれども、泥の園庭を設けてあって、隅のほうには砂場を設けてありました。この砂場はおっしゃるには、「子どもはケガをする。落ちててもよい。だから、それを落ちてても困る、ケガして困る、汚れて困るのは来ないでください」と言っています、ということです。自信を持って、汚れます、ケガします、ということです。だから、「砂は落ちててもよいように、ただし、砂をいつも、こう、ちゃんとしています」ということでした。

これは、体育館です。そんなに広い体育館ではありませんが、いつも子どもたちがいて、してみようかなというところにとび箱もあるし、何でもある。毎日使っている、1時間なら1時間の空間と別個にこういうところがあって、子どもたちは、自分の気持ちに合わせて、跳び箱跳んでみたいと思ったら、そこで跳んでみたり、みんなで一緒に遊ぶとか。それぞれに、よい空間がたくさん設けてあったということです。

この人が園長先生。園長室は狭いところでした。自分はそういうところに、あれということですね。狭いところですね、園長さんを、どこにおんさかねということで、ちょこっと座ってあったんですけどね。他の子どもたちが使うところはいっぱいいろんな工夫がしてありました。

それから、子どもたちのリズムを変えないで預かるという考え方で、0～1歳までの子どもが30人もいるそうです。全体が120人いらっしゃるそうです。30人も赤ちゃんをどうされるのかな、リズムを崩さないでということで、どうされるのかなと思って、見せていただきましたら、部屋の中にガラス張りのドームのようなところをつくってあって、A子ちゃんが眠たい時間と、B子ちゃんが眠たい時間が違うから、B子ちゃんが眠たいというときには、その中に寝かせる。そういうふうに個別の空間をつくっている。本当に素晴らしいところでした。ありがとうございました。消してください。

だから先ほど市長がおっしゃったように、自然の中で、自然に遊ぶことの中で育てるというのは、こういうことなのかなということを見せていただきました。

それから、1つ、本当に私は、どこの幼稚園でもされていらっしゃるんですけども、連続性というのをこれほど目の当たりに見たことがなかったので、びっくりしました。

0歳の子どもたちは、赤ちゃんですからね。2歳の子も1歳の子もこうこうして、3歳の子もまだ、こうこうしてる。

私たちが——私は友達と2人で行ったんですけど、入っていったら、「ばあちゃん、こんにちは一！」って、みんなワーッって一緒になって来ていた。あ、本当だなと思って、「ばあちゃん」って言って、言いながら行きました。ずっと見て行って、年長さんの教室に行ったら、同じ時間帯ですけど、すば一と席についている。そして、行って入っていったら、「こんにちは一！」とみんな明るい声で言いますけれども、席は立たない。自分が何かしていても、ちゃんとしている。それが、連続性っていわれるのは、それなのかなと。

0～5歳まで、ずっとそのときに応じた指導、保育をしてくると、やっぱりこうなる。

そして、ここから小学校のほうにつないでいく。幼保連携ですね。すごいなと思って見てまいりました。こういう保育園ができればいいなと思って、帰ってまいりました。

私は、教育というのは、先ほどからいろんなものが出ておりますが、いろんな道具も出ております。新しい道具もたくさん出ておりますけれども、教育の根幹というのは変わらないと思っておりますし、幼児教育の根幹も変わらないと思っております。

今、武雄市は、学力の向上に向けていろんな方面から取り組んでおられますが、その学校の学力にいく前に、幼児教育、根っこの教育、ここが本当に大事ななと思っております。昔から三つ子の魂百までと言われておりますけれども、本当にこの根っこのところをしっかりと教育をしておけば、幼児教育をしておけば、ずっと上にしっかりそういうふうに連続性を持って発達していくのではないかと——本当にすばらしいなと思って見てまいりました。

私は、その根っこのとこの教育、幼児教育というのを、いろんなものがあるにしろ、いろんなものが出てくるにしろ、どういうものがあるにしろ、私はやっぱり、この園長先生のおっしゃるように、教え込むのではなく、自然の中から、遊びの中から、遊びを通して、そして、本当に真剣に遊ぶという言葉は私は初めて聞いたんですけれども、真剣に遊ぶその中から、人としてのいろんなことを学びとっていく。それには、やはり保育士の先生方の勉強もいると思います、指導もたくさんいると思いますけれども、そういう保育園ができればいいなと思って、今度、北方の公立の幼稚園にしろ、武雄保育所にしろ、形態が変わってまいりますが、市長の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

出されました宝塚市のわかばのもり保育園は、私も関係者がいますので、いろんな話を聞きますけれども、1番僕がびっくりしたのは、けっこう都会の中にあるんですよね、保育園です。狭いスペースなんですけど、近くにはけっこう自然がありまして、しょっちゅう歩いて行っていて、そこはすごく僕は感心をしているんです。

やっぱり、その働いている人たちから話を聞くと、武雄はうらやましいと。要するに、保育所だったり、保育園のすぐ近くに大自然があると。だから、すごく武雄はよいところですね、ということをおっしゃってくださるんです。

やっぱり遊びから学ぶ、そして自然の中から学ぶというのは、今こそ大事。どんなにデジタルが発達しても、人間そのものはアナログなんですよね。それは、遊びであったり、自然というアナログっていうのを、今、デジタルの時代が進むからこそ、特に幼児ですよ。子どもたちに、私たちが教える必要があるだろうと思っています。

かくいう私ですけれども、保育所は立派な成績で中退しております。中退なんです、僕。そこで、集団行動とか協調性が身につかなかったと。それが今になって非常に響いていると思っていますので、ぜひ再入園したいと思ってるんです。本当に、そうなんですよ。僕がこういう保育所、武雄でがんばっておられる保育園とか、ちゃんとしていけば、もっとよい人間になったと思うんですね。（発言する者あり）私語を慎んでください。

ですので、そういうことも、自分の反省もふまえて、ぜひ幼児教育というのは、民間がやられることというのは、それはそうなんです、我々もできる限りのことはバックアップしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

市長の再入園は無理だと思いますけれども、本当に幼児教育というのは、根っこの教育は大事だと思っております。

先ほど、市長からお答えが出ましたけれども、わかばのもり保育園には、私は、障がい児に対してはどのような取り組みをされているのかなということもあって、見てまいりましたが、そこは、ずっと長い間おりましたけれども、どの子が障がいを持ってらっしゃる子どもかなとわからないくらい、みんなととけ合って生活をしていらっしゃいました。

そして、先ほど話がありましたが、官と民との交流がとてもよく出来ているということで、市のほうからもたくさんの援助をもらっています。だから、こういうのができるのです、ということでした。

だからもし、今度、保育園が民間になりますが、市長が言ったように、官でできることはしっかり手を差しのべてやって、そして目的を達成する保育園を目指してつくっていただきたいと思っております。

次、タブレットの導入について質問いたします。タブレットについては、たくさんの方の質問が出ておりますので、ダブると思いますけれども、私たちにわからない質問がきておりますので、お尋ねしたいと思っております。

今、時代の流れとともに、いろんなことが出ております。フェイスブック、ブログ、インターネット、さあ、なんかんってですね、カタカナばかりで、我々にとってはなかなかピンとくることもないし、どうすればよいのかと思っております。どうなるのかなと思って、私、ある日、ここにちょっと行ってみました。最先端のIT関係というのはどういうのになっているのかということで——アドテック九州ですかね。これをどういうことで——市長は、たまたま話される講演があると聞いたので——すみません、なんか、どういうことを話されるんだろうか。そして、最先端のITはどういうふうに進んでいくのか、物すごく興味がありましたので、私は年配2人で行ってまいりました。行ってほんとに驚きました。行ったら

本当に場違いでした。皆さん、もう、パソコンみたいな人たちばかり、ずらーっと何千人もの——国際会議場の中にですね、ずらーっと集まって、もうそれはですね——私たちが2人で行ったら、「入られますか」と言うから、「入りますよ」と言って、名札を持って入りましたけれども。みんな、もう——私はこういうのわからんばいよねと思って、市長の講演だけ聞いて帰ろうかと、どういうふうなことを話されるのかって、話を聞きましたけれども、そのとき、渡辺さんという、とっても有名な方と一緒にトークセッションがあっておりましたが、本当にびっくりしました。そこで、図書館がずいぶんと問題になっておりました。そして、皆さんが図書館を評価されて、いろんな質問が出てですね。

それから、市長がおっしゃるときには、皆さんが拍手をされたり、うーんと驚いて帰られたりですね。市長の会話が終わったらぞろっと、出て行かれたので、あら、と思って見ておりましたが。渡辺さんの影が本当に、市長のほうがこうしっかりと見えて、誇らしく思って帰ってまいりました。

でもそこに行って思ったんですけど、どんなにデジタルIT環境が進んでいっても、やっぱり話されること、さっきの話ではないけど、根幹というのは一緒なのかなということも思って、安心して帰ってまいりました。

私も、本当に人間の、ここで言うのは変わらないのかなと。じゃあ、タブレット導入についても、どういうものなのかを、みんなに知ってもらわんばいかなということですね、きょうは質問を考えておりますが——よいですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も、上野議員さんがお越しになって、びっくりしたんですね。アドテックという、世界最大級のシンポジウムが、九州で実は先週あったんですよ。会場は1,000人入るところで、おかげさまで、ホリエモンさんが私の後だったんですけど、ホリエモンさんの前に、あとアマゾンの社長さんですよ。アマゾンジャパンの社長さんが私の後だったんですけども、そこで光栄にも日本の自治体の長として初めて呼ばれたと。ほかに自治体の長で呼ばれたのが、サンフランシスコ市長とカリフォルニア州知事なんです。そこで、なぜか私が呼ばれて行って、私自身も非常に場違いだと思って、出たことをすごく後悔はしたんですけども、その中で、トーク、セッションをしてるときに、やっぱり中身が大事だよなって。デジタルでも、iPadとかいろんな話が出ましたけれども、その中でも上野議員がいみじくもおっしゃったように、やっぱりその中身が大事だということが、皆さん共通認識であったということですので、私も改めてそれを再認識をしました。

私がすごいなと思ったのは、上野議員さんなんです。よくあそこまで来られるなと思って、1,000人の中で上野議員さんわかりました、本当に。神々しくて、本当に、それはすご

くやっぱり嬉しく思ったんです。やっぱり大事なのはここだと思うんですよ。好奇心だと思うんです。好奇心。デジタルは、好奇心はありません。人間はアナログなんで、好奇心でもっとよくなろうとか、もっと調べてみようとか、そういう何かやろうという気持ちが、僕は、上野議員さんが1人神々しく見えたときに、それを菩薩観音のように思ったわけですよ。本当に。普通来ませんよ、福岡まで私の話なんか聞きに。でも、おかげさまで、立ち見も出るくらいの盛況で、非常に評価されたようです。それはそれでよかったですけども、やっぱり、私がああ場で学んだのは、わざわざそこにお越しいただくという、上野議員に限らないんですけど、学ぼうとか、あるいは知ろうとか、足を運んでそこに来ようっていうね、千数百人の、2日間で3,500~3,600人だったそうなんです。そういう人たちのお気持ちですよ。そのときに、佐賀新聞の社長もお越しいただいてました。ですので、僕は本当にやっぱり偉いなというふうには思いました。経営者がそういうふうにお越しいただくということでもね、本当に偉いなというふうには思いましたし、そういう意味でむしろね、私が学んだひとときになったんで、本当によかったなというふうには思っています。

いずれにしても、長くなりましたけども、中身が大切だということは、すごくやっぱり感じました。僕は、デジタルは外見だと思うんですよ。アナログは中身だと思うんです。やっぱり、外見よりも中身です。それを痛切に思ったひとときになりました。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に私も持って帰って、中身はよくわかりませんでしたけれども、そういうことを感じて帰ってまいりました。

では、タブレットについての質問をしたいと思います。タブレットについても、先ほどから、いろいろ質問が出ておりますけれども、私に尋ねられるところは、タブレットというのとはどがんもね。そしてそれは、授業で利用してどういう効果、ずっと前にもありましたけれども、もう一度ですね、お願いしたいと思います。どういうふうに使って、どういう効果があるかね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

非常に重みのある教育論議があっておりまして、まさに本当にそうだなというふうに思っております。質問とか、話題性から、パソコンのこととか、いうことの話をする人が多いわけですが、時々尋ねられます。もっと子どもはいろいろさせるのが大事やないかとかですね、1時間中そがんことしよったら目の悪なったるもんとか、いろいろ質問をいただきます。まさにそうでありまして、毎回申し上げておりますけれども、やっぱり知・徳・体

をですね、より高いレベルで調和させると、もっと子どもたち可能性を秘めていると思う
いるわけで、そういう面では質問に答える形で、こういう話ばかり増えておりますが、私も
こういう面は得意でもありませんし、また子どもたちを育む上ではですね、体験等、あるい
は人としてのいろんな交流、思い、考えの交流が非常に大事だというふうに思っております。
各学校で使ってもらっているところでもですね、そういう思いで先生方もしてもらっている
という状況でございます。

カタカナが確かに多く出てきましてですね、私も整理つかないところがあるんですが。ど
このメーカーのものというのは省きますけれども。タブレットですね。(実物を示す) こうい
う形をタブレットと言っているわけですが、もともとは、平らな板とかですね、銘板とか、
メモ帳とかそういう意味があるようです。平らな板と考えたほうが一番わかりやすいかなと
いうふうに思っております。ちょっと大きさは違いますけれども、大体10インチ程度というこ
とで。ちょっと大事なもので、ちょっと——。こういう形ですね、大体10インチ程度とい
う形で、山内東、武内で使っているのがこの大きさのものですね。それから大きさがいろ
ろありまして、こちらが若干小さく、軽くなりますが7インチ程度ということでございます。
タブレットとはどういうものかということからいけば、こういうものであるということにな
るわけでございますが、もちろんですね、中にいろいろ——中身のことをコンテンツとかい
う言葉で言っているようであります。それから、教室ではこれじゃないですけど、こうい
う形の電子黒板もありますけれども、これに近いもっと大きな電子黒板と、これとこれをつな
ぐですね、そういうソフトがあるわけですが、そういうのをアプリケーションと言っている
ようでございます。これなぜ言うかということ、後で説明しますが、そういう仕事を誰が
するかということになりますので今言わせて——、これとこれをつなぐソフトをですね、入
れたりする、アプリケーションということ、以上で大体よろしいですかね。タブレットにつ
いては、よろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

タブレットの形式については、もうおわかりだと思いますが、じゃあこれをどういうふう
に使っているか。それから先ほど教育長おっしゃったように、やっぱり先生方の指導力とい
うのを大いにですね、影響してくるものだと思いますので、そこら辺をどのように現場でされ
ているものなのか。それから、先生方は、タブレットはもう早くから使っていらっしゃるも
のなのかどうかですね、現状はどういうものなのかなど思っておりますよ。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

(モニター使用) どうしてタブレット導入なのかということ。いろんな理由があるわけですが、大きくはですね、これまで述べましたように、これからの社会を考えたときということもあるんですけども、例えば、これ昨年の12月にとったアンケートでございます。武内小学校の68人、山内東小の133人、約2年近く使ってきたわけです。授業わかりやすいですかということですね、若干違いはありますけれども、90%、77%の子どもたちがですね、やっぱり授業がわかりやすいと、使った上でわかりやすいという子たちが出ております。それから、これだけの経費をかけるわけですので、じゃあ学力は向上するのかという、その結果を出すというのは非常に難しいところがございます。これだけで、学力が上がったのかというようなことになってくると、そうばかりは言えないところもありますので。また、直接比較というのも非常に失礼なところもありますので、やれないところもあります。ただ、同じ学年で使っていなかったときと、使い始めて1年経ったときというのは、間違いなく平均的な数値というのは向上している。これは数値としてもあるわけでございます。それから、そういう中で今の状況を見まして、電子黒板もかなり入っているわけですが、各学校の校長先生方にも2回にわたり調査の御意見を聞きました。そういう中でぜひ導入してやりたいという御意見が多かったわけです。そういう意味ですね、いろんな面から、子どもたちの非常に高い意欲とですね、集中度、それから学力の面、そして先生方の思い等々を含めてですね、導入をすると、タブレットを入れるという形にしたと。

それから、これそのものじゃないですけど、電子黒板が、今年度末では約80%ぐらいの教室に入るんじゃないかというふうに思っておりますけれども、その扱いが先生方、非常に慣れてきていただいている。電子黒板もタブレットも一緒に使い始めたら、非常に先生方の苦勞も多いただろうと思うんですが、実は夕べも8時半過ぎまでですね、先生たちが勉強されてるところを見たんですけども、非常に先生方も意欲的に取り組んでおられるということで、タブレットを導入してもですね、十分、教室で活用していただくんじゃないかということなので、導入をしたところでございます。

すみません、長くなりまして。

○議長(杉原豊喜君)

11番上野議員

○11番(上野淑子君)〔登壇〕

本当に、タブレットの有効な使い方は素晴らしいと思いますが、本当に、ずっと前回言い続けておりました、現場担任は忙しいと。その忙しさの中に今度また、電子黒板ね、タブレットも本当に素晴らしいものであるけれども、入ってきたことによって先生方がどうなのかなということ。それから先生方にとっても、わかってくれるということは、大きなメリットですけども、そこら辺の時間的なものとか、それから教育長もおっしゃっておられるように、子どもたちと向き合う時間、そういう時間を見出すのはどうかという、そこら辺の関係

とかは、どういうふうに工夫とか努力とか、また先生方へのタブレットの指導法とか、夜8時までされているということを聞きましたが、そういうふうな時間的なものは、どういうふうにされているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）もう少しごらんいただいてもよろしいですかね。

これがですね、実際に今の教室の様子でございます。電子黒板入れましても、電子黒板と黒板をうまくつないで、学習が進んでいるというところであります。それから、右側の写真を見ていただきますと、首からかける形になっているのを気づかれると思います。やっぱりそういう形で、首からかける形ですね、落とすことがないようにということで、今そういう扱いをしております。

いろんな使い方があるわけですがけれども、一人ひとりの進み具合に応じて、ドリル的にば一つとやっていくと。先生がおらんでも、いつでもできると。そういう朝の時間に、そういう練習をやっている時間もあるようです。自分の進み具合でどんどんやっている。と同時にですね、そういうドリル的な扱いと同時に、これごらんいただくとわかりますように、自分の考えなんかを見せ合って、話し合って、交流をするということも当然出てくるわけでございます。

これは、自分なりのデザインをやっているところです。後で触れているかもわかりませんがけれども、今回、特に特別支援学級の子どもたちにもっと有効な使い方があるんじゃないかというような話も、意見も聞いておりまして、そういう面では音楽であったり、図工、美術であったり、そういう面での活用も十分に考えられるかというふうに思っております。これは自分の選んだ写真に、自分が心地よいという言葉を重ね合わせているわけでありまして、そういう自分の選んだ写真、自分の選んだ言葉ということで、自分を表現していくと。一例でありますけれども、そういう使い方できると。交流をしている場面でございます。これは、わりとドリル的ではありますけれども、漢字を集めてるということですね。自分なりに評価をしているというところでございます。これは、タブレットじゃなくてもよいわけですがけれども、グループでタブレットを時計代わりに使っているというところでございます。グループで、自分たちで設定した、時計代わりに使っていると――。

そういうことで、今まで私どもが見てきた中でいくつかの例でありまして、もう恐らく数限りない工夫、アイデアが今から出てくるだろうというふうに思っております。それで先生方が極端な忙しさにつながらないようにという、非常にありがたい御意見をいただいたわけで。昨晚のはですね、非常に自主的な集まりのようでありましたので、自分たちですね、集まって勉強されているということでもございました。

それから実際に、先ほどのでは出てきませんでしたけれども、設問に対して、30人なら30人の答えが、これが先生のパソコンに出てくると。そうすると、A君がちょっと今わかってないなということ、その場で言えると。これは、休み時間に解答なり、ノートなりテストなり、集めて先生が気づくというんじゃないくて、即座に対応できると。これは非常に有効だなということで、各地から見学、今、見えておりますけれども、そういう点で非常に高い評価を得ているというようなところでございます。そういう意味では、先生方の勤務の効率化、それから、子どもたちをより具体的によく見れると、見る時間ができると、そういう面では、非常に意義あることにつながるのではないかというふうに判断をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に上手く使って、先生方も大変と思いますけど、使いこなせるようになれば、素晴らしい教育の一貫になるんじゃないかなと思っております。今度は、タブレットを全児童に配付されます。それは、本当に黒岩議員がおっしゃったように、公平に、みんなに格差がないように教育を受けられる、教育の道具として使うことができるということは、大変嬉しいことだと思います。

私がここでお尋ねしたいのは、では不登校の子どもたちとか、それから学校に來れない病後児とか、いろいろな子どもたちがいると思いますが、その子どもたちに対しての対応はどのようにされているのかを、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今、申し上げたことは、お聞きいただいて、恐らく、これ十分使えるなという思いを持たれたと思うんですね。現実には、やっぱり学校に行けない子どもたちもかなりいるわけがございます。そういう子どもさんたちに学習をいかに保障するかということは、私どもの非常に大きな課題として、今までもいろいろやってきたわけですが、全員にそういうタブレットを持たせて、自分のできるところからやってみようということで、そういう個別の対応というのが、非常にやりやすくなっていく面があるんじゃないか、意味あるんじゃないかというふうに思います。もちろんそれだけで、一番最初、御意見あったその友達との交流であったり、考えをつきあわせたりと、そういう段階に進まないといけないわけですが、それはそれとして、学力を保障しつつ、そういう面につないでいくと、そういうことが可能になるのではないかというのを強く大きな期待として、また進めていかないといけないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと1点補足しますと、私高校のとき重度の引きこもりだったんです。それで、ただね、きょう、どういう授業があってるんやろうかというのは結構気にはなってたんですよ。私の数少ない友人から、「きょうこういう授業がありよったよ」ということを聞いたときに、「ああ、そうなんだ」と思った経験がありましてね。私は、小学校のときは、おかげさまで先生が上野先生みたいにすごくよかったんですけど、それでも不登校で苦しんでいる子どもたち、あるいは親御さん、やっぱり私のまわりにもいるんですよ。できれば、先ほどマンツーマンということ以上に、僕がやりたいと思っているのは、授業を配信できないかなと思って、そのものを配信。ですので、今、技術でそれは簡単にできるんですよ。パソコンで見るとどうしても堅苦しいというのがあるんですけど、私も配信の——今、例えばハーバード大学とか、マサチューセッツ工科大学とかってというのは、全授業を配信しているんですよ、講義を。それを見てると、パソコンとかテレビで見ると、ちょっとやっぱり堅いなと思うんですけど、くつろいでiPadで今見ることもできるんです。これは、NHKの放送もオンデマンドでこう見れますけれども、そうやって見ると、なんかすごくやっぱり「あっ、近いな」という感じがするんですね。タブレットの効果っていうのは、おそらく、物すごくアナログに近いっていう効果もあると思いますので、これはシステム構築とかに時間がかかりますので、ぜひ、どこかのタイミングで、ある特定の小学校、全部配信するっていうのは、それはちょっと不可能ですので、その配信というの、ちゃんとやっぱり考えていきたいなというふうに思っています。

そうすることによって、それが導火線になると僕は思うんですよ。「あっ、やっぱり行ったほうがいいよね」というふうになると思いますので、それはぜひ、これも黒岩委員長のIT特別委員会のお力を借りながら、そういったシステム構築も進めていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ぜひ、そうしていただきたいと思います。どの子にも公平にということで、取り組んでいただきたいと思っております。

最後にですけれども、引きこもりについてお尋ねをいたします。私のところに相談がありましたのは、小学校からずっと不登校で、中学、高校、年齢がなりまして、もう二十何歳になられて、まだ1歩も家を出ることができない。こういうときは、どこにどがん相談するのだろうかということをお聞きしております。引きこもりについて、どのような対策をされているものなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

引きこもりの対策ということでございますけれども、引きこもり等の相談があった場合というふうなときにつきましては、家族の方とか、民生委員の方を通じて、こういう引きこもりがありますよというふうな話があると。そういうふうな場合については、それぞれのケースにつきまして、例えば市の保健師による家庭訪問を行ったりですね。それから、その結果によりまして、専門の相談機関等につなげると。そういうふうな対応をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これちょっと大事な問題なので、ちょっと補足しますとね、この引きこもりの状態っていうのは、義務教育——さっき部長の答弁、義務教育のあとの話です。

その前に、例えば義務教育を受けている子どもたちがなかなか出てこない。これは不登校という言い方をしますけど、これはちゃんと対応しなきゃいけないと。教育の観点から。です。先ほどはある意味、社会人の引きこもりの話をさせていただいているんですね。これ難しいのは、個人情報保護法なんです。これね、本当に難しく、やっぱり私たちの住んでいるところにも、そういう引きこもりで苦しんでおられる方々っていらっしゃるんですけど、なかなかこちらの方から近づいていくことはできないんですね。それはやっぱり、個人情報保護法っていうのが壁になって、やっぱり申し出があったところに対応するっていうしか今できないんですよ。そうすると、もう手遅れの状態に来る。

私も引きこもりでした、大学のときは。でも、軽度だったんですね。明るい引きこもりでした。ですので——そうそう、笑いが出るくらいの明るい引きこもりだったんですけど、そのときは「出てこんね」とかって、結構、友達来てましたもんね。私は、20歳のときに床ずれもできました。それはなぜかっていうと、私の行った大学がみんな頭がよすぎて、何言ってるか全然わかんなかったんですよ。それで、強度の自信喪失になって、僕は病院にも行きました。そしたら、「あなた床ずれができてますよ」っていうふうに言われるぐらい、本当に自分なりに苦しんだんですよ。

その経験からすると、やっぱり声をかけてもらうっていうのが、自分の経験から照らしてもすごく大事で、それでいったん自信を持つっていうこともすごく大事なんです。今その環境っていうのが社会の——僕は個人情報保護が全部悪いとはいいませんけど、そういう壁があって、なかなか手をさしのべにくっていうのがありますので、そこも社会的な環境を少しずつでも変えていく必要があるだろうというように思っています。

ですので、ちょっとこれね、もう本当に悩んでいます。そして、これプライバシーの根源に関わる話ですので、行政がどういうふうに近づけていけばよいのかということも含めて、本当に議論をしなきゃいけない。

きょう、婦人会の皆さんたちが多くお見えになっているんです。武雄町の婦人会長さんとか、本当に真剣に考えておられるんですよ。ですので、そういう意味で、どうすればいいのかなということが、ぜひね、知恵があったら、こちらの方が教えてほしいところでもあります。

ただし、これは社会的な問題だっていう以上に、家族の根源的な問題にもなりますので、それはよい方向に進むように、ぜひこれは議論を重ねていく必要があるだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にそう思います。先ほどおっしゃったように義務教育、学校に行ってる間は、いろんな手がさしのべられますけれども、それ以後のことですよ。本当に困っていらっしやいます。個人情報のことでも困っていらっしやいます。民生委員さんもきょう、お見えになっております。どうすればいいのかなということですね。だから、せめて私がお願いしたいのは、窓口で相談に来られたら、「相談に乗りますよ」じゃなくて、「引きこもりも、ここに相談口がありますよ」というようなことをしていただけないかなと思っているんですよ。相談すればいいというのはわかっております。福祉に行けばいいというのは、我々わかりますけども、本当に困っているその方たちは、「どこに？」ということがありますので、本当に窓口を開けていただけないかなと思います。

そこにネーミングの得意な市長が〇〇って名前をつけられたら、「そこ行ってみようかな」という、せめてその突破口ができればなと思っております。市長。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは2つ考える必要があって、例えば、児童生徒のときっていうのは、それは学校がちゃんとまず主体的にケアをする話だと思うんです。社会人の方でそうなったときっていうのは、これはきちんと窓口をつくりたいと思います。それで、今のところでなかなかその窓口って、これかなりプライバシーの話にもなりますので、そこは慎重に考えたいと思うんです。

ですので、今度新しく庁舎がなるときは、プライバシーを確保しつつ、気軽に御本人であるとか親御さんが来れるようなスペースというのはちゃんと取りたいというふうに思っておりますので、ぜひ、そういう制度設計をするときには、上野議員さんをはじめとして、山口裕

子議員さんもそうですけども、お母さんという立場でお話をさせていただいて、きょう北方町の婦人会の皆さんたちの——きょう若妻教室かと思いましたがけれども、お見えになっていますので、そういう母親の観点からとか、あるいは主婦の観点であるとか、女性の観点で、ぜひ「こういうふうにしたほうがよいよ」というのを、実際つくってからするのは遅くなりますので、その前段階から十分に相談に乗ってほしいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番上野議員

○11 番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に悠長な問題ではなくて、抱えている家族の方は大変なことだと思っております。きょうも多分見てらっしゃると思いますので、安心をされたことと思います。どうぞ、大変でしょうけども、行政が先頭に立って取り組んでいただきたいなと思っております。

これで一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

上野議員、席に戻ってください。

以上で、11 番上野議員の質問を終了させていただきます。